

平成 14 年 10 月 14 日

『第 1 回大学サミット』開催

本日 14 日「第 1 回大学サミット」が豊島公会堂（東池袋 1-19-1）で開催された。区と区内 4 大学（立教、学習院、大正、東京音楽大学）が揃って行う初めての共同事業で、第 1 部が豊島区長と 4 大学学長とのパネルディスカッション、第 2 部が 4 大学学生による街づくり提案のプレゼンテーション。

「大学サミット」は区が目指す「文化の風薫るまち としま」の実現に向け何ができるかを、区内 4 大学と協働で考えていこうという試み。**官学共同の動きは各地でも盛んだが、自治体が地域の大学全てを巻き込んで、「サミット」として取り組むのは全国初。**

第 1 部パネルディスカッションでは、パネラーとして高野之夫豊島区長、押見輝男立教大学総長、永田良昭学習院大学学長、松濤誠達大正大学学長、兎東俊之東京音楽大学学長が参加。これからの大学と地域との関わりについて意見を出し合った。その中で学長達からは「これからは開かれただけでなく、外に出て活動する大学でなくてはいけない」「みんなが歴史を共有できる街づくりを共に」などこれまで以上に行政と大学の連携を深めていこうとの発言が相次いで出された。

第 2 部はいよいよ学生によるプレゼンテーション。**「豊島区イメージアップ大作戦！」**と、題してこれからの豊島区の街づくりのビジョンを学生の視点から提案した。参加したのは**区の募集に名乗りをあげた 4 大学学生 25 名**。今年 6 月から約 4 ヶ月間、3 グループに分かれ、それぞれ**「お笑い」「映画」「芸術」**を街づくりのキーワードに決め、時には**夏休みも返上して調査研究を重ねてきた**。この 4 大学混成 3 グループに授業として参加した大正大学単独グループの加えた計 4 グループが競演した。

まず舞台上がったのは大正大学・人間福祉学科のグループ。高齢者の集う街楽鴨に焦点を当て、現地調査を踏まえ高齢者に優しいバリアフリーの街づくりを提案。駅のエスカレーターの設置や休憩のためのベンチの設置など具体的な施策を区に提言した。

次の「映画」グループのイメージアップ作戦は、まず豊島区役所に「映画課」を設置、区内ロケ地の紹介や機材の提供を行う。また学校跡地を撮影所に改造したり、「としま映画祭」を開催、また新たな才能を発掘するためにスポンサーとして民間を巻き込む**「としまネーの虎」**など、ヒト、モノ、カネのトータルな施策を提案。**自主制作映画を交えた洗練されたプレゼンテーション**を行った。

「芸術」グループの提案は、池袋西口公園ステージを会場とする**「西口アートコンテスト」**の実施、その入賞作品等を展示する廃校跡施設を活用した**「ひのでミュージアム」**の開設、及びコンテスト会場とミュージアムを結ぶ**「芸術通り」**設置の三本柱。また、こうした事業の運営主体として区民・学生ボランティアによる「アート発信事務局」の設置も提案。実際のコンテスト風景を寸劇に仕立てたプレゼンテーションを行った。

「お笑い」グループの目玉企画は**「決戦は金曜日！作戦」**。ライセンス制により登録された芸人が予選ライブを戦い、勝ち残った芸人だけが毎週金曜日、池袋西口公園の野外ステージでライブができるという内容。また、ライセンスを取得した芸人たちは学校跡地を利用した「お笑い村」の村民になることができ、教室を住居や稽古場として使うことができる。**自作自演の漫才や東京音大生の音楽を使ったコント**等を混ぜながら、芸人がライブで勝ちあがっていく様子を熱演。会場を沸かせていた。

その後、大学サミット大賞を決める審査に入った。「どのグループも優劣つけ難く、大変難しい審査だった」と高野区長も言うなか、見事大賞を勝ち取ったのは「芸術」グループ。グループ代表は「今回こういう機会を与えてくれてありがとうございます。**このサミットが 2 回、3 回と続いていくことを願っています**。これからは何か違う形でサポートしていければと思います」と受賞の喜びを語った。

詳細：地域文化課